

**2012 年度 3 月期事業報告書**  
2011 年 6 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日まで

## I. 公益財団法人認定に関する事項

当財団は、2011 年 5 月 20 日内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受け、「公益財団法人 大川情報通信基金」に移行した。

・2011 年 6 月 1 日「公益財団法人 大川情報通信基金」への移行

## II. 事業の概要

### 1. 顕彰事業

#### (1)2011 年度(第 20 回)大川賞

○ 大川賞審査委員会      2011 年 8 月 10 日(水)開催

○ 受賞者

デューク大学 James B. Duke 教授

慶應義塾大学 環境情報学部長・教授

イングリッド ドブシー 博士

村井 純 博士

#### (2)2011 年度(第 20 回)大川出版賞

○ 大川出版賞審査委員会(1) (計 2 回)

2011 年 7 月 25 日(月)開催

2011 年 9 月 22 日(木)開催

○ 受賞図書

『どうすれば「人」を創れるか—アンドロイドになった私』

大阪大学 大学院 基礎工学研究科 教授 石黒 浩 著

株式会社 新潮社 刊

## 2. 大川賞・大川出版賞・研究助成贈呈式

2012年3月、大川賞・大川出版賞と国内研究助成、中国・韓国研究助成の贈呈式を併せて行った。なお、これを記念しての講演会を同時開催した。

日時:2012年3月14日(水)15:00~18:30

15:00~16:00 記念講演会

演題:「世界の構造変化と日本一次世代 ICT 社会を見据えて」

講師:寺島 実郎 氏(財団法人 日本総合研究所 理事長・  
多摩大学 学長)

16:00~17:45 贈呈式

17:45~18:30 懇親会

場所:ANA インターコンチネンタルホテル東京 東京都港区赤坂 1-12-33

## 3. 2011年度大川賞受賞記念シンポジウムの共催

電子情報通信学会、慶應義塾大学及び当財団の共催により「2011年度大川賞受賞記念シンポジウム」を開催した。

日時:2012年3月16日(金)14:30~17:30

内容: 1) 開会挨拶

電子情報通信学会 会長 安田 浩 博士

2) 大川賞受賞者による記念講演  
「大川賞の趣旨・受賞者の紹介」

大川賞審査委員長 相磯 秀夫 博士

「インターネットの研究」

慶應義塾大学 環境情報学部長・教授 村井 純 博士

「ウェブレットの研究」

デューク大学 James B. Duke 教授 イングリッド ドブシー 博士

3) パネル討論

「研究者として生きる～次世代の研究者達へ～」

モデレータ:

慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 委員長 教授  
徳田 英幸 博士

パネリスト:

イングリッド ドブシー 博士、村井 純 博士

場所:慶應義塾大学 三田キャンパス 南館 B4F

## 4. 研究助成事業

### (1)2011 年度(第 25 回)国内研究助成

- 研究助成選考委員会(計 2 回)  
2011 年 7 月 27 日(水)開催  
2011 年 10 月 1 日(土)開催

### (2)2011 年度(第 16 回)米国研究助成

- 研究助成選考委員会  
2011 年 7 月 27 日(水)開催
- 米国贈呈式  
日時:2011 年 11 月 4 日(金)18:30~22:00  
場所:ホテル ニッコー サンフランシスコ

### (3)2011 年度(第 5 回)中国・韓国研究助成

- 研究助成選考委員会  
2011 年 10 月 1 日(土)開催

### (4)アジア地区(中国・韓国)研究助成対象者歓迎レセプション

贈呈式の前日の 3 月 13 日(火)に中国・韓国の研究助成対象者及びその推薦者(各大学の学部長クラス)を招き、歓迎会が行われた。

- 日時:2012 年 3 月 13 日(火)19:00~21:00  
場所:ANA インターコンチネンタルホテル東京 37F「アリエス」  
東京都港区赤坂 1-12-33

### (5)その他の協賛活動等

- 情報通信月間への協賛の支援を行った。

## 5. 関西文化学術研究都市における大川センターについて

京都府の関西文化学術研究都市内に設置した「大川センター」では、SCSK グループの行う社会貢献活動である CAMP (Children's Art Museum and Park) が継続的に開催されている。CAMP では、米国マサチューセッツ工科大学をはじめとする国内外の大学、研究機関とも連携しながら、地元の小中学生を中心とした情報通信やコミュニケーションに関する創作ワークショップの提供を通じて、同分野の啓発を図ると共に、教育、文化の向上に努めている。また、利用を希望する大学、教育・研究機関や地域の団体等にも施設を無償で開放しており、シンポジウムや国際会議、教育活動等に幅広く活用されている。

## 6. 広報活動

- (1) 研究助成の成果概要の公開について
- (2) 年次報告書の発行
- (3) インターネット・ホームページの充実
- (4) テレビ・新聞・雑誌等へのパブリシティの強化

## 7. 庶務に関する事項(略)

## 正味財産増減計算書

2011年6月1日から2012年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	合 計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	8,264
② 受取寄付金	98,289
③ 雑収益	264
経常収益計	106,817
(2) 経常費用	
① 事業費	109,281
② 管理費	21,866
経常費用計	131,147
当期経常増減額	△ 24,330
2. 経常外増減の部	
経常外収益	
当期経常外増減額	514,582
当期一般正味財産増減額	490,251
一般正味財産期首残高	41,040
一般正味財産期末残高	531,292
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	△ 514,582
指定正味財産期首残高	5,412,351
指定正味財産期末残高	4,897,768
III 正味財産期末残高	5,429,061